

味ロジ株式会社経営健全化方針

坂 城 町

(作成担当課：商工農林課)

1. 方針の期間

平成31年度から平成35年度まで（5年間）

2. 概 要

法 人 名 味ロジ株式会社

所 在 地 坂城町大字網掛2020番地

設 立 年 平成25年

営業内容 ・農産物等の生産、加工及び販売
・飲食店、売店の経営
・地産地消、地域食文化の伝承活動の企画及び運営
・上記に附帯又は関連する一切の事業

資 本 金 2,500千円

社 員 数 20名

取扱品目 ドレッシング、ジャム、調味料、おやき、切干、ドライフルーツ、菓子、漬物などの加工品、おしぼりうどんなどの飲食品

味ロジ株式会社（以下、「味ロジ株」という。）は、地元の女性たちが起業し、町の特産品であるねずみ大根やりんご、ぶどうなどの地場産農産物を使って町内で加工商品の開発・製造・販売を行っている法人です。

味ロジ株は平成14年から2年間、町と県が実施した「さかき味づくりセミナー」の受講者が中心となり、地場産農産物を使って手づくり加工品をつくることを目的とし、平成16年に設立された「味ロジわくわくさかき」が前身となります。

平成24年には国より6次産業化認定を受け自立に向けてのステップアップを図り、平成25年に「味ロジ株式会社」として法人化しました。その際、町は150千円を出資し町職員が取締役の一人に就任、平成28年には、株式会社坂城町振興公社が2,000千円を出資いたしました。

3. 法人の経営状況について

(単位:円)

	項目	金額				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
貸借対照表から	資産総額	9,452,742	8,759,054	15,795,580	12,020,839	7,388,571
	(うち現預金)	2,661,060	2,690,056	8,268,304	5,876,040	2,362,259
	(うち売掛金)	2,040,743	1,656,500	1,350,529	981,463	860,415
	(うち商品)	1,257,043	1,629,374	2,211,593	1,797,314	1,346,511
	負債総額	8,589,080	9,397,535	15,534,501	11,257,012	8,194,585
	(うち当該地方公共団体からの借入金)	0	0	0	0	0
	純資産額	863,662	△ 638,481	261,079	763,827	△ 806,014

	項目	金額				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
損益計算書から	売上高	26,381,157	36,945,741	45,397,885	48,707,392	39,412,743
	営業費用	28,637,163	39,520,638	46,143,975	51,102,980	40,842,163
	営業外収益	707,089	1,176,089	1,863,963	3,612,383	29,178
	営業外費用	87,421	103,335	218,313	232,448	169,599
	特別利益	0	0	0	2,695,792	0
	特別損益	0	0	0	3,177,391	0
	当期純利益	△ 1,636,338	△ 1,502,143	899,560	502,748	△ 1,569,841

経営状況は、平成 25 年度（第 1 期）の売上は 26,381,157 円、平成 26 年度（第 2 期）は前年度比約 140%増の 36,945,741 円となりましたが、赤字決算となりました。平成 27 年度（第 3 期）は売上を更に前年度比約 123%増の 45,397,885 円にまで伸ばし、平成 27 年度、28 年度（第 4 期）は黒字決算となりましたが、平成 29 年度（第 5 期）は売上が前年度と比べ 9,294,649 円減少し、再び赤字決算となり債務超過となっております。

4. 町の経営健全化の取組について

総務省の「第三セクター等の経営健全化方針の策定について」で、町にとって財政的リスクが高いとされる法人についての基準が示され、平成 29 年度決算で債務超過等となった法人については、経営健全化方針を町により策定することが定められました。このため町は、味ロジ株式会社経営健全化委員会を設置し、経営健全化方針を策定し健全化に取り組むことといたしました。

町は、町内農家や生産者団体、直売組合などと連携し、地場産農産物の産地ブランド化を図ることにより農産物の生産量を増やし、新規就農者などの農業者人口の増加及び高齢化の解消につなげることで近年課題となっております遊休農地の解消を図るため、様々な農業振興策を推進しております。

坂城の農産物を商品化している味ロジ(株)は、町の農産物の認知度を高め、ブランド化を図り、農家の収益や就農者の増加、遊休農地の解消につながる公共性・公益性の高い活動を行っております。また食堂（びんぐし亭）では、県の伝統野菜にも認定された「ねずみ大根」を使い、地元で古くから食されている「おしぼりうどん」を提供しており、地域食文化の継承にも取り組んでおります。

このような活動は町が進めております農業振興とも一致することから、債務超過解消のための経営健全化支援を実施してまいります。

5. 経営健全化のための対応

町は以下にある経営改善策を県や町商工会、町農業支援センターなど専門機関の協力を受け、味ロジ(株)の経営健全化を図ってまいります。

○人材育成

全スタッフが経営、営業、製造などの各能力のスキルアップを図るための研修会等の受講

○事業収支の見直し

部門別損益計算書を再精査し、それぞれの経営上の問題点を抽出、改善

○商品構成の見直し

A B C 分析（重点分析）¹等による売れる商品の選定と改良

○製造工程の見直し

H A C C P²システムの導入と効率化

○新規販路の開拓

F C P シート³を活用し、自社の強みを生かした営業活動の強化と商談会参加

○新商品の開発

マーケットリサーチによる地場産農産物を用いた商品開発

¹ 経営分析するための手法のひとつ。対象商品をA、B、Cの3つに分類して主力商品とそれ以外の商品とを判別する。

² Hazard Analysis and Critical Control Point の略。食品事業者が自ら食中毒汚染や異物混入を防止するための工程を管理し製品の安全を確保する衛生管理の手法。2018年6月食品衛生法等が一部改正され、この手法に沿った衛生管理が制度化。2020年6月までに施行され、その後経過措置期間を経て義務化となる。

³ FCP は Food Communication Project の略。国で示された全国統一の展示会・商談会シート。

6. 経営健全化のための目標

町は、味ロジック(株)の債務超過を解消するための経営改善支援を行い、平成35年度の当期純利益 2,000 千円を目指してまいります。

年度別目標指数

(単位：千円)

損益計算書から	項目	金額				
		平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
	売上高	36,000	37,000	38,000	39,000	40,000
	営業費用	36,000	36,500	37,000	37,500	38,000
	当期純利益	0	500	1,000	1,500	2,000
貸借対照表 純資産総額		△ 1,000	△ 500	500	2,000	4,000